

お便り

元顧問 松尾 秀邦

拝復 “やまざと” No.14 拝受致しました。名簿を見ていると、昔を思い出します。当時の部員の方々が社会を牛耳っている様子が伺えて懐かしく拝読致しました。

ところで、金沢市の委員会の席で定塚君や中川君とご一緒に過ごされた様で、彼らには小生の若い時の悪事(?)の数々を知り、さぞや…と存じます。これから何かと会をもたれることと思いますので、よろしくご放声下さい。

左膝を痛めてもう山歩きは…と断念しております。まだ車は動かしますので、たまには遠出します。(往復 200kmはありません)

年末ご多忙中のところをお騒がせ致します。よいお年をお迎え下さい。 頓首

(編者注：筆者は昨年から金沢市環境保全審議会委員を引き受けることになった。器も何もやってみるのが、一番わかると、受けたまで。居並ぶおじ様方の肩書きからは、明らかに格落ち。男女共同参画の時代の流れのとはばっちり！と割り切ったものの…視察旅行中の長い同席時間を、どないしよ…であった。

それが何と皆さん、松尾先生のご後輩ばかり…というか、毒氣に当たったことのある方ばかりだったのである。私達の視察旅行の間中、はるか松山の地で、くしゃみを連発しておいでたとは思えない。という訳で、思いがけぬ同窓会気分を味わってしまった。その話を同封して会報をお届けした。)

8期 伊予 欣二

立秋、盆が過ぎても連日この暑さは…という大阪の毎日です。

今年から少し山歩きをということで、奥さんの山歩きに同行して、少し歩いています。高三郎の石楠花を見には行けませんでした。今年の山歩きで、花を楽しませてもらっています。

7/20~22の連休に、どこへ行こうかと迷っていたのですが、赤石、悪沢岳や餓鬼岳が候補に上がっていたのですが、結局白山になりました。直前に、室堂、南竜に皿を入れても、予約はすでに満杯。まあなんとかなるさと用意にかけると、飯盒が見当らず、久しぶりにコッフェルで飯を炊くことになったりの準備。

7/20 大阪吹田を5:30に出発。途中トラックの自己などもありましたが、10:00 市ノ瀬着。バス待ちなどもあって、別当を出発したのは11

:30。普通のペースで基之助の小屋跡でのたつて、15:00 前に小屋に到着。小屋を覗くと、先客は1パーティ4名のみ。昭和38年に白山オープンボッカで小屋に泊まって以来の基之助小屋泊まり(最後は定員オーバー)。

久しぶりの炊飯となりましたが、コッフェルの底がボコボコで焦げが真っ黒の仕上がりになり、何とか無事食事終了。早々と就寝。

7/21 3:30起床。4:30出発。のんびりとエコーライン経由で、お花を楽しみ乍ら、室堂へ、6:00前に到着。前日のゴハンの残りに餅入りおじや。ザックを室堂に置いて、お花畑巡りのワンデリングへ出発。(ザックは3人で1個だけに。ちなみに、メンバーは私と奥さんと、奥さんの山友達の3人)。こんな時期に白山へ来たのはほとんどなく、こんなに花を愛でてのんびり歩いたのは初めての白山??

コバイケイソウがこんなにカワイいらしいと思ったこともなかったし、白山石楠花がこんなに咲き誇っているのも初。(去年は雪が多くて、8/4、5、6でもきれいだったのですが)黒百合に4つも花をつけているのを見たのも。ピークには一つも立たず、お花畑巡り。お花松原まで足を延ばし、さらに平瀬道の方へカンクラ雪渓を覗きに行き(雪はありませんでした)展望台コースを少し歩いて、8:00~17:00 頃までノンビリ歩きました。

この日の夕食はコッフェルの底の平らなやつでキッチリ炊き上げました。室堂は連休2日目で何とか泊めてもらえそうで、2人分3人ということで、私は玄關の板間でユックリ寝ました。トイレに行く人の戸の開け閉めがうるさかったのですが。

7/22 3:30起床、4:30出発。15:10 市ノ瀬着
今回の大汝峰が初めてのピーク。ここで北アや白山北部の山を眺めてノンビリユックリ。

帰路はお花を眺めてノンビリで釈迦道を。人も少なく、砂防や観光の道とは違う、本来の山を楽しみながら、2つ目のピークが釈迦前岳のみと、最後の車道を除けば、素晴らしい山歩きでした。最後に永井旅館でユックリ汗を流して終了。

報告が一つ。白山に「コマクサ」

お池巡りコースの千蛇ヶ池の室堂よりの所に2株花をつけていました。(見付けたのは女性二人)。解説の人によると、他所から移植したらしいのですが。

今年は春から御在所アカヤシオ、比良でシロヤシオ、稲村ヶ岳で石楠花、イワカガミと、花には随分ついてます。9月10月には穂高と、一度も行ったことのない戸隠にでもと考えています。

小屋泊りは仕方ないですが、餅を自分達で作って食べるのが一番いいですね。10数年ぶりに背負子型のザックを引っ張り出して 担ぎました。まだゆっくり歩けば、しばらく楽しめそうです。

奥様は相変わらず元気で、気の合う山仲間と二人で羊蹄山、北ア（双六～水晶～赤牛～黒部）と出掛けています。

今度いつ〇Ｂの皆様にお会いできるかわかりませんが、白山は、年に1回位楽しみたいです。いつも白山を知らない人の案内役で、砂防

・観光ばかりでした。釈迦道はS38年の道作りのバイト以来でしたが、毎日の作業のことしか記憶になく、シゲジを少し覚えている位。少しずつ違ったルートも歩いてみようなどと、考えています。

出しそびれているうちに台風11号。でも、去るとやっぱりすぐ暑さは戻ってきました。いろいろお世話になると思いますが、よろしくお願いします。白山でコマクサを見たので、報告を兼ねて…。乱筆で記しました。

12期 小西 外士郎

いつもお世話ご苦労様です。再び16年振ですが、北海道に来ることになりました。人口より乳牛が多いという広々した酪農散った行で気持ちいい所です。

26期 浅井 浩一郎（内）



恒久永く
幸福を
祈る

Merry Christmas
and a
Happy New Year

いつも遠くにお越し
本当にありがとうございます。
ます、相変わらず山好き
の主人と一緒にあちこち
遊んでいます。日本へ
帰ったらぜひ御一緒させ
て下さ。良いお年を...

戦

2001年はこの字でしめくられる事になりました。9月11日、アメリカでおきた同時多発テロ。

ワングルの連絡網も1ヶ月以上フリーズしてしまいました。世界がどうなるのか？日本がどうなるのか？あすがどうなってしまうのか？

ただ、現在の所、グラウンドゼロに眠る〇Ｂはいない模様です。

この〇Ｂ会報は、浮き世離れしていることも一つのよさかだと思います。しかし読み返した時あの事件のかけらも見られない…であって、なるほど、知性・常識の欠落した集団と受けとめられかねません。よって一〇Ｂのメールを掲載し、困惑の記録としておきます。

11期 青柳 健二

SUB:雪の降る前は（この1ヶ月半の哲学的思考の報告）

青柳です。あの9月11日の忌まわしい事件以来、宗教学的、文化人類学的かつ哲学的にいろいろと難しい問題を沈思黙考してきた。

- ・物質的な豊かさを追求してきた近代文明は、全ての人類に幸せを与えたのか
- ・コンクリートの巨大タワーで構成された大都会は、幸せを約束してはいない
- ・全世界をアメリカ的にしようとするのが、人類にとっての成長なのか
- ・ビンラディンの放った（とされる）自爆テロは、単純なアメリカ文明への反逆であろうか
- ・ブッシュが、「善と悪の戦い」と図式化し、タリバンを滅ぼせば問題は解決するのか
- ・アフガンのイスラム原理主義者が求める幸せとはなにか

・自爆テロリストは、本当は何のために自爆したのか

様々な事を考え続けた。夜も寝ずに考えたので、昼は仕事に時々眠った。そのうち、寝ながらも考えられると思ったので、夜は眠ることにした。考え続けると、頭にも休息が必要だと気付いたので、テレビは見ることにした。

イチローの野球を、朝の5時に起きて見た。天才が努力すると英雄になると思った。

高橋尚子のマラソンも見た。目標を達成した女性は、次に何をするのか気になったが、一週間後に記録がアッサリ破られたので、また走れると思い、安心した。

長島監督が突然止めると宣言してから、ヤクルトが負け出したので、長島は早まったのかと心配した。でも結局ヤクルトが優勝したので、長島はそれで良かったと思った。

重要な問題を考えるためには、本を読む必要があると思い、テロ事件の記事が載った本を3冊買ってきた。

難しい本を読む前に、活字に慣れないといけないと思い、直木賞を受賞した恋愛小説も買って読んだ。今年の夏に行った上田の塩田盆地为舞台になっていて面白かった。

同じ作家の、リハビリ中の野球選手と神経を病んでいるピアニストの恋を描いた文庫本を買ってきてまた読んだ。ハッピーエンドではなかったので、ガッカリした。

新書本のタリバンという題の本を買ってきて机の上に置いた。

哲学的な問題を解くには、教科書が必要なので、「われ笑う、ゆえにわれあり」という女子大の哲学教授の文庫本もついでに買って、真剣に読んでみた。

考えたり、本を読んだり、テレビを見たり、夜は寝たり、昼は仕事をしたり、仕事にも重要な問題を考えたり、重要な問題を考えると眠くなるので、仕事でも寝たりしては体に良くないと気が付いたので、やっぱり山にも行くことにした。

10月になっていたのも、紅葉が綺麗な所が良いと、今年のコダワリの尾瀬に行った。沼山峠から尾瀬沼に入って、長蔵小屋に泊まって、燧が岳に登った。ブナやナナカマド、ダケカンパの紅葉がピークの時期なのだが、今年は霜が早く来たとのことで、尾瀬沼の紅葉は今一つ本当の輝きがなかった。燧が岳では山頂でガスが巻き、夏に登った至仏山の勇姿を眺められず、満足度不足だった。勿論カメラを担いで、写真も一杯撮ったが、KUVVのHPに載せられるような傑作はなかった。

やっぱり紅葉を愛でるなら、天気が良くないと駄目だと思ったので、天気予報で快晴を約束

された20日に、西沢渓谷に行ってきた。快晴で、紅葉も丁度良く、水量豊かな溪流には、所々に豪快・華麗な滝があり、楽しかった。帰りは雁坂トンネルに抜け、秩父に出て、道の駅大滝で温泉に入った。温泉のある山しか登らないというオジサンのがんが、よく判るほど気分が良く、このままビールを飲んで眠られたら幸せだろうと思ったが、お金もないので、暗くなった道を家に帰った。夜のドライブでは、眠くなるので、重要な問題を考えたが、やはり眠くなり困った。

9月11日を境に世界が変わった、と言われるので皆やはりこの重要な問題を考えているのだろうと思っていた。皆同じようにメールを出す気力も出ないほど考えているのだろうと思っていたが、金沢のおひい様は、毎週毎週、山に、ハイクに出掛けていたようだ。桑名のオジサンも、やっぱり毎週どこかに出掛けていたようだ。でも、みんな、山に登っていても、倉谷で栗ご飯を食べていても、紅葉に歓声をあげていても、あの9月11日のことは、気にかかり、哲学的に考えているのだろうと思う。田村教祖さまは、倉谷に定住し世を捨てたテント生活者と、この大問題を語り合っていたとの報告も受けている。

だが、ニューヨークの巨大瓦礫の下に、今だ4000人を超える死体が眠っている現実があっても、季節は着実に、また冬にむかっている。

冬が来るとまた雪が降る。雪が降れば、足がウズク、足がウズクのを放置すると体に良くない。体に良くないと、大事な問題を考え続けることができないので、スキーに行くことが必要だ。冬にスキーに行くには、秋にその準備が必要、だから重要な問題を考えながらも、大台が原に行く人に別に文句も言うわない。配偶者の許可があれば私も行きたいと思う。

だが、9月11日を境に、やはり世界は、歴史は変わっている、今年は年賀状を書くのを止めるかもしれない。大晦日に紅白を見るのを止めるかもしれない。何十年も続けてきた習慣を止めることが、重要な問題を考え続けるには必要だと思う。そろそろ重大な決定をしなければいけないと、今覚悟している。

山登りとスキーと、一般的な尺度では変な人達とのメールを止めると体にも精神にも良くないことはとっくの昔に気がついており、重要な問題を考え続けるのには、かえって役に立つのが、この1ヶ月半でまた確認できたので、止めてもあまり問題のないことを止めたいと思っている。

人間にとっての美味しさだけを求めて育てられて牛達には、狂気がとりつく。

右上がりの成長なんて幻だ。

6月23日（土）5時に起きて近くの米山（よねやま）に登った。6月の末は定例の人事異動の時期であり、社内でも山好きのN君が3年の任期を終えて出向元へ帰っていくはずである。（その前に）近くで有名？な米山に登ろう、と言ったのは5月初めの山菜取りに行った時であった。6月に入って内示の日が近づいてきたので、地元採用の女性で山菜取りや山が好きなMさんにそっと23・24のどちらかにしようともちかけた。もちろん人事事項は機密事項なので理由は言わない。しかしお天気が悪そうである。この企画もお流れか、思いつつ20日から3日は出張で留守にして22日の遅くに帰ってきたらMさんから「雨は大丈夫みたい。行きましょう」と電話が入る。慌てて押入れの登山用具を引き出す。靴、ボンチョ、カップ、手袋、一式入っている。家内は「本気？」と言う顔で見ているが言い出したなら聞かないことは知っている。

翌日我が住まいを6時に出て、N君のほかにS君が加わってMさん宅に回って、彼女の愛車（ホンダCRV）に乗り換え米山に向かう。急遽加わったS君も今回の異動で3年の出向を終え帰る事になった人で、前日5時以降に参加が決まったと言ういきさつであるが何しろ今回の趣旨にぴったりである。さて米山の紹介はパンフレットにまかせよう。

〔米山〕

柏崎市と中頸城郡柿崎町との境界に位置する標高993mの山で、その姿は秀麗である。海岸からそそり立つようにそびえ、地元では親しみをこめて「米山さん」と呼ばれる。

「米山さんから雲が出た…」と三階節、「行こか参らんしょうか米山薬師・・・」の米山甚句などの唄の魅力で全国的にも知られています。頂上のお堂には日本三大薬師の一つである米山薬師がまつられ、古くから信仰の山として有名で、雨乞いに靈験があるといわれ、土地の人の信仰は厚く、また毎年12才になると十二薬師の加護を求めて登山する習わしがある。山頂からは刈羽平野と頸城平野が一望でき、晴れた日には日本海のかなたに佐渡を見ることができる。



（米山伝説）

仏師として有名な泰澄が、修行もかねてこの山にこもり、薬師を刻んでいたときのことである。

その弟子である沙彌は、托鉢で師と自分の生計をまかなっていた。

伝説によれば、毎日海岸の岬まで下山し、沖を通る船乗りたちに鉢を飛ばして（？法力で・・・と言われている）施しを受けていたという。

そんなある日、米俵を山と積んだ船が通りかかった。

沙彌は『鉢一杯で良いから、米をわけていただけないか？』と、丁重に頼んだのだが、強欲な船主は一粒もわけてくれなかったという。沙彌がなにやら真言を唱えると、どういう訳か船上に積み上げてあった米俵が次々と舞い上がり、山の頂上に積み上がってしまった。困った船主は上陸し、えっちらおっちら登山して、沙彌に自分の欲深さを詫びたところ、またもや見る間に米俵は船上に

戻ったという。

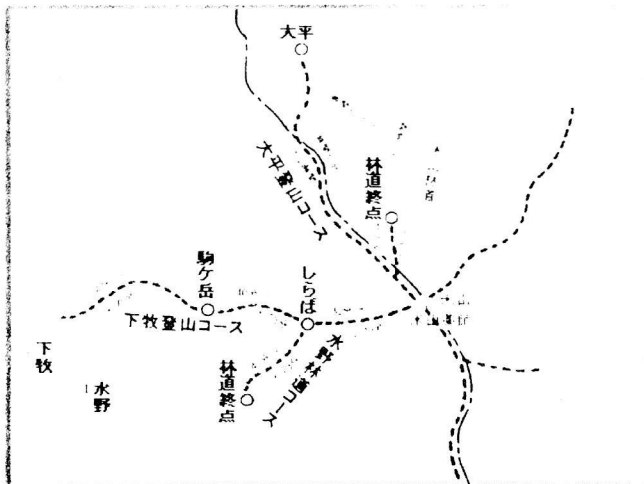
以来、米俵の積み上がったこの山を、人々は親しみを込めて『米山さん』と呼ぶようになった。(あくまで『さん』が付くのである)そして、その間に刻まれて完成した薬師は米山薬師と呼ばれ、現在も米山山頂に奉られている。

また、沙彌が鉢を飛ばしていた土地は、『鉢崎』と呼ばれていたのだが、戦後の町村合併と地名改変で『米山町』となった。だがしかし、郵便局はいまだに「鉢崎郵便局」の名を使っており、地元民もその名を使うことが多い。

さて我が家を出発してから1時間ほどで登山口に着く。水野林道である。林道のおかげで中腹まで入れる。すでに何台か車が入っている。「福井」のナンバーもある。

今回のコース是水野コースと言う。

米山の登山口はいくつかある。柏崎側から行けば頂上近くまで車が入るとMさんが言う。彼女は小学生の頃から登っていて今回は5年振りとのことである。



道はよく整備されているが、取りつきは階段の連続で最初に「きつい」と言わせる尾根登りである。雨は降らないが完全に霧の中状態で周りの景色は見えない。出張の疲れや4月から痛めた首・肩をいたわりながらマイペースで歩く。

若い3人は、と見ると、最後に参加を決めたS君はきつそうである。

(S君 私 Mさん)

今回2回目で前回も同じコースだったことが思い出されて前回のきつかった思い出が一緒に蘇ってきたようである。

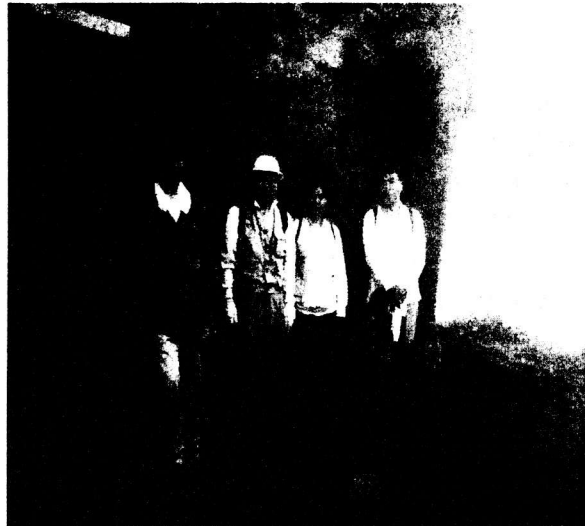
私は初めてであり、ひたすら、我慢、我慢と言い聞かせてマイペースを守る。昔の弱者先頭を思いだし一番をキープする。

途中休憩をはさみながらも1時間10分ほどで頂上993mに着く。

冒頭に紹介した薬師堂がある。お参りして避難小屋(ログハウスで広い)で登山張に記入して休憩する。周りは全く見えない。もちろん佐渡も見えない。



休憩しているうちに冷えてきた。お互い持参のおやつで50分の休憩をした後、8時10分下山開始。もと来た水野コースを下る。途中に下牧コースとの分岐点がある。これを下ると車のある所からはるか離れたところへ下りてしまう。S君が仲間とはぐれて前回これを下ってしまったと言う。下りは速いが途中の草花を見たりしてゆっくり下りてくる。ちょうど1時



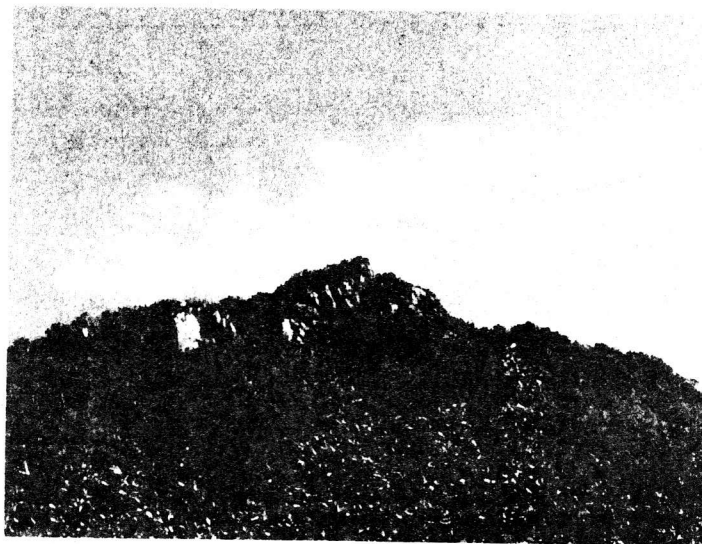
(N君 私 Mさん S君)

間で林道の駐車場に戻った。まだガスっていて雨がパラパラしていたが、車で帰途に着く。往きと逆に回り、自宅に帰ったのは10時過ぎ。早朝ゴルフをやったような気分である。

「越後富士」と呼ばれる姿・形のいい米山を毎日自宅から眺めていたが、まず一つ登れた。周りの景色が見られなかったのは残念であるが、この近さを考えればいつでも…と思う。周囲には妙高、火打、黒姫、雨飾、などなどいい山がある。この次の誰かの送別登山になる前に、と、Mさんと話し合っているところである。

妙高山(2454m)に登る

4期 森島 稔



2001年もあと1ヶ月を残すころとなった。1年前は2000年最後ということで「ミレニアム」が氾濫していたのだがずいぶん前のことのように思える。

今年の初めに宣言していたことが3つ(①スキーをやる。②米山に登る。③妙高山に登る。)ある。スキーは晩冬の3月に残雪の中、生まれて初めてスキーを履いた。滑ったとは言わないが、60歳にして初めての挑戦?であった。

米山はすでに報告済み(今回のやまざと?)である。そして今回の報告が妙高山である。

上越市に来て2年が過ぎた。周りは山と日本海である。中でも妙高山は日本百名山のひとつであり、わがマンションから毎朝眺め観天望気している山である。上越に住んでいて妙高を知らずに済ませられるものではない、と意気込んで宣言した次第である。

「妙高山の由来について」

妙高山は古くから越（こし）の中山と呼ばれ、その中山が名香山（なかやま）となり漢詩を詠みこむため、音読して名香山（みょうこうさん）となり、字を飾って妙高山となったといわれている。

わが国には、その土地の名山を中山と呼んだ慣わしがあり、命名の流行がこの地にも及び「こしの中山」となった言い伝えがある。

さて今回も社内の（職制と慈悲による）有志5名との6名で 9月29日（土）の朝早く自宅を出発して妙高山の麓 「燕温泉」に向かう。6時集合に全員意気込んでそろった。

天気も上々である。

6時きっかりにスタートを切って、短い温泉街を抜け、薬師堂で拝み、野天風呂の「黄金の湯」（無料）を横目に見ながらスキー場中をあるく。温泉の原水を引く「湯道」に沿って歩いていくと「源湯」に着く。ここらあたりから硫黄のにおいがきつく



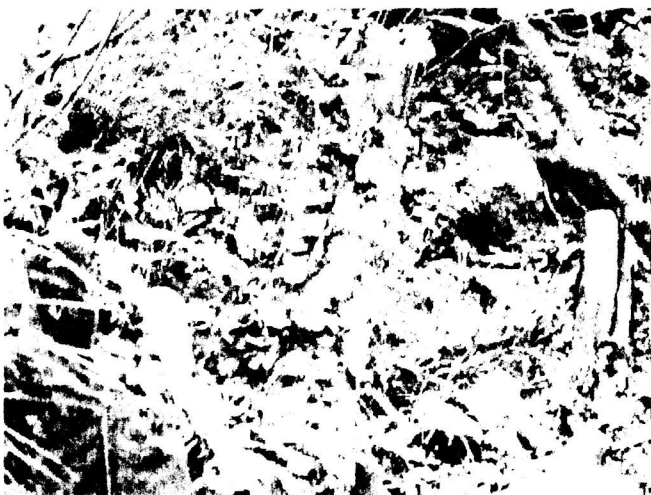
（後列中央 が 私）

なっている。燕温泉は白濁の典型的な硫黄温泉である。妙高山には、水呑場が少ない。写真右に見える水と黄金清水しかないのではないだろうか。沢の水は、硫黄分を含み飲むことができない。

光明滝、称名滝の横からは頂上まで登りが続く。日本海側の山はほとんどが独立した山でなだらかな縦走路はないようだ。

登り始めて2時間半で天狗平に着く。ここはわずかな平地で犬小屋程度の祠がある。赤倉から大谷ヒュッテ経由で登ってくると天狗平にくることになる。

休憩の後いよいよ頂上目指す。ひたすら急なのぼりを黙々と登る。この山には「*合目」の標識がない。地図に書いてある時間が目標である。途中できのこ（やぶたけ）を見つけ、しばし、きのこ狩りをしながら登っていく。





1800mくらいの高さが紅葉として最も見ごろであった。

頂上直前で鎖場に出る。
麓から4時間経っている。

この鎖場は名前のとおり直登のため鎖やロープがかけられていて上り下りともこれを使わないと危険である。
風も少し出てきた。
周りは紅葉してきて大変美しい。



そのくらいの余裕があったのである。

ようやく頂上に到達。妙高は頂上を2つ持っている。新潟・長野方面に来ると画廊に飾ってあるのは妙高山ばかりでイモリ池から見た馬の背のような姿が特徴である。最初に到達したのは南峰(2454m)である。



山頂の気温は3.5℃。20cmくらいの霜柱が解け始めている。

時間は10時35分。日当たりをさがしておにぎりを食べるが寒いので落ち着かない。

三角点は北峰(2446m)にある。

11時45分山頂を後に「燕新道」側を下る。長助池分岐までは急峻であり、こちらから登って来る人たちも苦しそうだ。我々の燕登山道側が苦しいと言われていたがどっちも同じだ。

長助池に出て1時間で黄金清水(こがねしみず)に出る。ここが水場だ。名のとおりうまい。

一休みしてまたまた一気に下っていく。それにしても下りがきつい。朝登った燕登山道との分岐点である麻平に着いたのは16時15分。

途中、川原に出たところに野天の「河原の湯」がある。混浴である。本来これに入って帰る計画であったがすでに日暮れが近いので断念する。登山口の燕温泉バス停に着いたらちょうど17時。



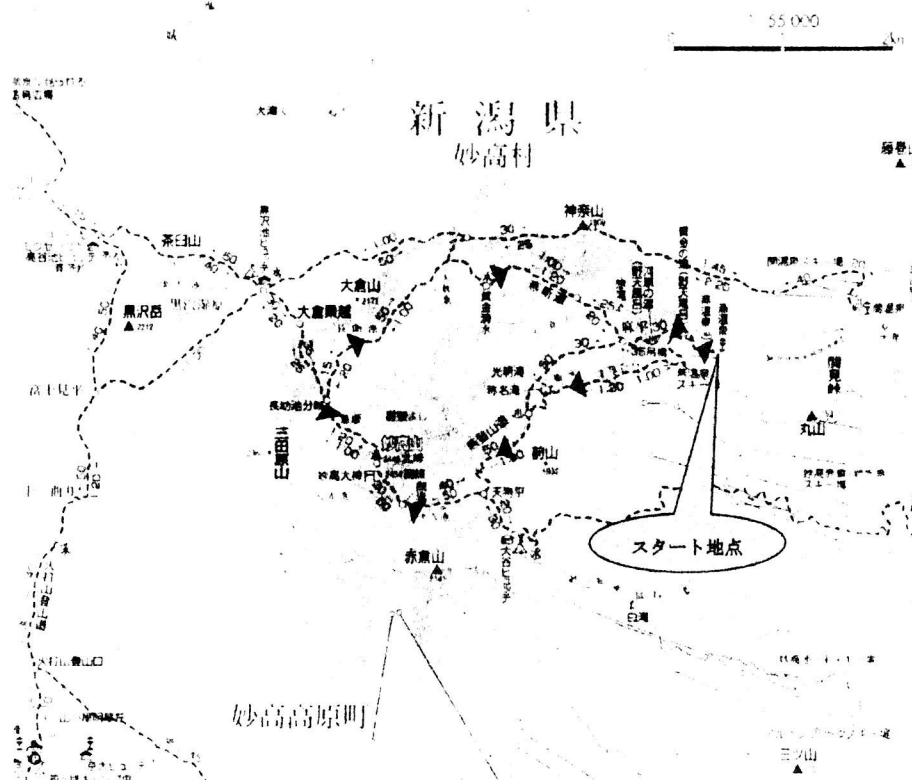
天候は終日快晴で青空の下気分よく登った。帰宅が18時。自宅からまだ夕闇に包まれた妙高が見える。なんというツキのよさであろう。これで今年の山は目標完了。ゴルフは肩をいためたこともあってこの登山の前日に今年最初で最後の1回であった・・・。

来年のことは言うまい。船田事務局長からの（原稿の）召集令状が怖いから。

「コース&タイム」

平成13年9月29日

6:00 燕温泉 ⇒ 7:25 湯道分岐 ⇒ 8:30 天狗平 ⇒
10:00 鎖場 ⇒ 10:35 妙高山山頂（昼食） 11:45
山頂出発 ⇒ 12:50 長助池分岐 ⇒ 13:24 長助池 ⇒
14:20 黄金清水 ⇒ 16:15 麻平 ⇒ 17:00 燕温泉



大辻山に登ってきました 投稿者：木津 治男

大辻山は、立山連峰の前衛峰で芦峠寺近くの低山です。

標高は1,361mと、低山ですが、立山連峰が一望できる原始の山として人気の高い山です。物の本によると「立山連峰の概念を知るのに好位置」と、「地元の者でも、目印を付けておかないと戻れなくなる」と、何かそそられるものがあります。

最近では登山道も整備され目印も多くなったそうですが、やはり、4月～5月の残雪期が一番だそうです。それで、この22日(日)に登ってきました。

立山少年自然の家に駐車し、積雪の林道を歩くこと1時間余り(約3km)、登り口の長倉峠から頂上まではずっと雪上でしたが、やはり雪山は足にやさしいですね。野球で言えば、人工芝に対する土のグラウンドです。木立の中をアップ&ダウンで、約2時間程(コースタイム30分含む)の中高年むきの登りでした。一番の特徴である、「見事な眺望」は残念ながらガスの彼方でした。少し、晴れ間もあったのですが、毛勝山三山、立山、剣というわけには行きませんでした。でも、再度登ってみようかという気持ちになる山ではありました。原始性は、トレースのみが目印で、リボンや標識の類は見かけませんでした。新しいトレースを目当てに歩いたら、登り口とは違う方向に下ってきてしまいました。でも、そのお陰で、ミズバショウの群落に出合い、花の咲がけで、なかなかの見頃でした。

HPは部室、掲示板は連絡帳感覚で 投稿者：10期 木津 治男

昔の昔のことだった。講義に飽きると、一人部室にふらりとやってきた。着替えるや、卯辰山に走り、所定のトレーニングコースを廻った。学食で昼飯を食うと、部室に戻り、一人、また卯辰山へむかった。何かに、つかれたように、いつも走っていた様な記憶がある。一日に、卯辰山往復3回をこなしたこともあった。

体育の講義は、サーキットトレを選択し、Aクラスで、懸垂10回、50kgベンチプレス5回、60度腹筋30回etcを、2セットこなすと、吐き気がするくらい、バテた。たしか、横でベンチプレスと一緒にやっていたのは、ボート部所属のでっかい男だったのを覚えている。これを、1年間通した。

今から思えば、ただ山に登れる体力が欲しい一念だったような気がする。

1年生の頃は、私にとって、部室は居心地悪く、ゆっくり座っておれる場所ではなかった。いわば、トレーニングの為の更衣室であった。どっかと、座れるようになったのは3年生ぐらいからだ。

夏休みの、久しぶりの部室は、たしか大学ノートが連絡帳として置いてあり、それを、読むのが楽しみだった。上級生にも、下級生にも、筆達者がそろっていて、それぞれ健筆を振るっていた。

かつて、KUWVで活躍していた、OB連よ、HPを覗いたら、部室に入ってきたのと同じだよ。連絡ノートならぬ、この掲示板に、ラブレ

ターの一つも書いてみよう。

奥大日岳縦走 投稿者：10期 木津 治男

この土日に、ある中高年登山グループに誘われ、28日(土) 立山室堂→雷鳥沢→奥大日岳→大日小屋29日(日) 大日小屋→大日岳→大日平→称名登山口を縦走してきました。

大日岳は、初めて登る山です。

北ア、南アとアルプス連山は殆ど登っていたはず、なのにです。

*

学生時代より同期の吉野君より、そのすばらしさについてはしょっちゅうレクチャーされていたのですが、いつか登れるわいで早、30年を越えました。

*

昨年より、夫婦で登山再開しましたが、カミさんは昨年友人と二人で、称名登山口より大日岳には2回も日帰り登山を果たし「吉野さんの言われるのはよくわかるわ、素晴らしい山よ、何回行っても飽きないわ」と聞かされておりました。

*

今回、土日ということで、カミさんも厚子師匠も勤務であいにく不参加でしたが、こしゃくにも、二日目の下りで、大日平よりワンピッチ程度のところでバツタリ通り過ぎました。二人共謀して日帰り登山を敢行したものでした。私等が厚生年金休暇センタで入浴直後に、大日岳から称名に下りてきたと連絡入り、一同でその健脚にびっくりしたのでした。恐るべし、奥様パワー。

*

今回のメインイベントは、大日小屋より望む剣岳の見たこともない先鋭なオベリスクでした。昂が輝くオベリスクのシルエットと朝焼けの剣をゲットしました。しかし、あいにく、厚い雲でご来迎には至りませんでした。

それでも、前日はガスが切れず、視界不良のママ小屋入りしましたので初めて荷揚げした三脚の出番がありホットしました。使わず終いだったら泣くところでした。

*

早朝4時にリーダーから、木津さん星空だぞとたたき起こされて朝食まで小屋前で震えながらカメラにかじりつきながら撮影してました。大日岳は私にとって、いい山になりました。皆様もどうぞ、お運び下さい、その時は縦走を勧めます。小屋に泊まって、ぜひ早朝の剣を堪能してみてください。

